

「こぎつね座」といっても、その存在すら知っている方は少ないでしょう。実は、ベガ・アルタイル・デネブが形づくる「夏の大三角」のど真ん中に位置する、「いい度胸をした星座」なのです。しかし、最も明るい恒星でも4等星。天の川銀河に埋もれていることもあって、実に目立たない星座です。

こぎつね座そのものは不遇な星座ですが、その星座内に位置するすばらしい星雲があります。それが「こぎつね座亜鈴状星雲 (あれいじょうせいうん) M27 (メシエ 27)」です。「亜鈴 (あれい)」とは「鉄亜鈴」のことで、中央が窪んだ形状が似ていることから名づけられました。一般に恒星は、どんなに明るくて大きいものでも、太陽系からの距離があまりにも遠い為、高倍率の天体望遠鏡で観望しても「点像」にしか見えません。写真に撮っても、「見かけの面積」が得られないのです。しかし星雲の中には、惑星と同じように、「見かけの面積」を持って観望できるものが存在します。こうした星雲は「惑星状星雲」と呼ばれています。

惑星状星雲は形状も色彩も美しいので、アマチュア天体愛好家には人気の観望対象です。私も過去にずいぶん撮影に挑戦しましたが、今までまともな像を得られたことはありませんでした。しかし今回、天体写真儀「Seestar」で挑むと、いとも簡単にすばらしい星像を得られました。あまりにも容易に撮影に成功したので、誠に拍子抜けしたほどです。ともあれ、1200 光年の彼方の美しい天体を撮影できたことに、大変満足しました。実に平安時代に星雲を出発した淡い光を、地球上でとらえたことになります。

(2024 年 11 月上旬 / 北軽井沢 / Seestar で撮影)

